

## 直轄警察犬訓練所の視察

野原隆士<sup>†</sup>（福岡県獣医師会副会長・福岡県議会議員）



警察犬には各都道府県の警察が直接管理・飼育・訓練し、警察活動に運用している「直轄警察犬」と民間人が飼っている犬で民間の訓練所で警察犬訓練を受けた「嘱託警察犬」と言われる2種類の警察犬がいる。

この直轄警察犬の訓練施設は設備費・犬の維持管理費等に経費を要するため、全国の警察にあるわけではない。

全国でも23カ所のみで、なかなか、直轄警察犬の日頃の訓練状況を知る機会は少ないが、先日、藏内日本獣医師会会長と一緒に福岡県警察の直轄警察犬訓練所を訪れる機会があったので、報告させていただきたい（図1、2）。

当日は、まず、訓練施設において福岡県警察の所管課である鑑識課長から警察犬訓練所職員の紹介を受けた後、警察犬訓練所職員から活動報告がなされた。

その主な内容は、福岡県警察犬訓練所は、直轄訓練所として昭和49年に開所した後、平成22年に施設を現在の場所に移転し、現在は6頭（すべて雄）の直轄警察犬が管理・飼育されていること、犬種としては、ジャーマン・シェパード、ベルジアン・シェパード・ドッグ・マ

リノアの2種類であること、訓練所職員の指導の下、日頃から、①現場遺留品等の臭気から行動経路を確認しながら、被疑者、探索物等を探索する捜索追及、②現場遺留品等の臭気と被疑者の臭気の異同識別する臭気選別、③銃器・爆発物・麻薬等の目的物を発見する捜索活動等の各種訓練を行っていることが説明された（図3）。さらに、犬の個体差（性格や鑑別能力）があるためそれぞれの警察犬に得意分野があること、また、警察犬が活躍した事例として、犯人の探索だけでなく、最近では認知症老人の行方不明事案における捜索活動の結果、行き倒れとなった認知症老人を早期に発見、保護した事案（この捜査では、人による捜査では発見することが困難であっ



図2 警察犬訓練所



図1 藏内会長と筆者



図3 犬が探索している様子・訓練風景

<sup>†</sup> 連絡責任者：野原隆士

〒819-0001 福岡市西区小戸3-20-18 ☎・FAX 092-881-6371 E-mail : takall@d8.dion.ne.jp



図4 犬舎

たが、不明現場からの出動依頼があり、捜索開始からわずか5分で発見した)、また、否認し続けるひったくり犯の靴の移行臭を追及し、犯行現場から遺留品発見現場まで辿り着いた結果、犯行の全面自供に至った事案等が紹介され、平成24年の警察犬出動実績は143回で、最近では行方不明者捜索事案が多い旨解説された。

その後、犬舎への案内を受け、間近で少数精鋭の警察犬と対面した(図4)。

無論、家庭犬のようにペット化されていないため、部外者の我々には敵対行動を示したが、数々の訓練や現場経験が窺えるように、その立ち居振る舞いに十分すぎる迫力を感じた。

また、臭気選別の訓練をする際の準備としては、使用する布片に他の臭いが残らないよう時間をかけて何回も何回も布片を水にさらしているのも印象的であった。

続いて、屋外で警察犬による捜索訓練のデモンストレーションを見せていただいた。

これは、警察犬訓練所職員がその場で任意に隠した麻薬物の移行臭を付けた布片を、別の職員と警察犬がペア



図5 タオル遊びしている様子

を組んで捜索し発見するという訓練である。

他の職員が、麻薬物の移行臭を微量に付けた布片を施設内に隠したが、現れた警察犬は、捜索開始からものの数分で見事に発見した。

ご承知の通り、警察犬の一連の行動は、あくまでも主人に褒めてもらい、一緒に遊んでもらうための行動である。

したがって、発見しても褒美としてペット犬のように餌をもらうのではなく、警察犬訓練所職員とタオル遊びをして満足するのである(図5)。

これは、長年にわたり、職員の厳しい指導の中にも深い愛情が注がれ、警察犬との間に信頼関係が構築された結果であると思われる。

今回の視察では、担当者と警察犬の間に人と動物の絆を感じる事ができた。

今後も警察犬訓練所の方々には、国民の皆様の安全・安心の確保のために、ますます活躍いただくことを期待している。